

会議録（概要）

会 議 名 称	第2回愛西市総合計画審議会
開 催 日 時	令和6年12月24日（火） 午前10時00分から正午まで
開 催 場 所	愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室1，2
出 席 者	別紙のとおり
欠 席 者	小島ひろえ委員、山内清乃委員、水谷良子委員、礒元玲奈委員、竹田友美委員
公開・非公開	公開
傍聴人の数	0人
審 議 事 項 等	●報告事項 第1回愛西市総合計画審議会以降の進捗状況について （基礎調査、市民アンケート、ワークショップなど） ●審議事項 基本構想案について ●その他
会 議 資 料	・次第 ・総合計画審議会委員名簿 ・配席図 ・資料1 第2回総合計画審議会 審議内容 <事前配布> ・第2回審議会 参考資料
審 議 経 過	別紙のとおり
議 事 録 の 確 定	
確 定 年 月 日	署 名
令和7年2月12日	署名委員 長谷川 岸子

愛西市総合計画審議会委員

役 職	氏 名	備 考
会 長	千頭 聡	
副 会 長	加藤 洋平	
	平野 英治	
	長谷川 岸子	
	鬼頭 豊次	
	加藤 憲治	
	小島 ひろえ	欠 席
	石河 和子	
	原田 健三	
	水野 善弘	
	山内 清乃	欠 席
	堀田 豊彦	
	杉方 南衣	
	松永 恵美子	
	水谷 瀧男	
	水谷 良子	欠 席
	池口 あゆみ	
	伊藤 里海	
	礪元 玲奈	欠 席
	竹田 友美	欠 席

職務のために出席した職員

役 職	氏 名	備 考
副 市 長	清水 栄利子	
総務部長	近藤 幸敏	
企画政策部長	西川 稔	
企画政策部参事	澤井 勇一郎	
市民協働部長	山岸 忠則	
保険福祉部長	田口 貴敏	
健康子ども部長	人見 英樹	
産業建設部長	宮川 昌和	
上下水道部長	山田 英穂	
教育部長	佐藤 博之	
消防長	伊藤 規雄	

事務局

役 職	氏 名	備 考
企画政策部経営企画課長	井戸田 悦孝	
企画政策部経営企画課課長補佐	若松 孝志	
企画政策部経営企画課主事	富田 智美	
三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）		支援委託事業者

審 議 経 過

発言者	内容（概要）
事務局	開会 資料の確認 会議の成立 [愛西市総合計画審議会条例第6条第2項] 会議の公開と傍聴について（傍聴人0名） [愛西市総合計画審議会運営規程第3条] 会議録の作成 [愛西市総合計画審議会運営規程第4条]
副市長	1. あいさつ ＜副市長あいさつ＞
会 長	2. 会議録署名委員の指名 ＜議事録署名委員として長谷川岸子委員を指名＞
事務局	3. 報告事項 第1回愛西市総合計画審議会以降の進捗状況について （基礎調査、市民アンケート、ワークショップなど） ＜資料1の2ページから57ページまで 事務局より説明＞
会 長	ご質問があればお出してください。
委 員	18歳以上市民アンケートの送付2,500名はどのような基準で選ばれたのですか。
事務局	当初アンケートの回答数が1,000ぐらいになるものと考えていました。結果としては、若干少ない回答数となりましたが、前回と同様、年代別、男女別、地区別にバランスよく回答がありましたので、有効なデータは取れたと考えています。 アンケートの対象者は、地区のバランスを考え、その中で年代別も含めて無作為で抽出しています。
委 員	選挙の投票率を見てもそうですが、アンケートの回収率35.6パーセントは、おそらく若い人の回答が少なく、お年寄りの回答が多いと思われますが、その辺りはどうでしょうか。
事務局	年齢が高くなるにつれて、回答率は高くなっています。今回webでのアンケートを導入し、若い人はwebでの回答率が上がっていますが相対的には少ない状況です。年齢が高くなると紙での回答が増えているというデータもありますので、今後の参考にしたいと考えています。

会 長	３２ページの回答者状況で、問２に「あなたの年齢【歳】」があります。２０歳代以下は前回とほぼ同じ１１．８パーセントと、やはり相対的に低く、回答者の半分強が５０歳代以上となっています。
委 員	５１ページの「愛西市への移住可能性」で５７．９パーセントが愛西市を移住先の候補になると回答しています。全国平均がないため、この数値が、高いのか、低いのか、普通なのか、分からない。私は意外と高いと思いましたが、どのように受け止めたらいいいですか。
事務局	交流人口・関係人口アンケートの調査方法は、市場調査会社のモニター登録されている方のうち、過去１０年間に愛西市へ来訪したことがある方をアンケートの対象者とし、その中の８００人からアンケートを取っています。将来、移住をしたいと考えている人の中で愛西市が移住先の候補になると回答した方が５７．９パーセントでした。判断としては愛西市が移住先の候補に挙がる可能性がある方が５割強いるということで、今回お示ししました。
委 員	５０ページの「愛西市との関わり方について」、イベント等が今後の関わり方（希望）で増えています。このイベント等はどういうイベントを対象にしているのか。
事務局	祭りや地域体験プログラムを例として記載してありますが、具体的なイベントを示してアンケートは取っていません。このモニターアンケートは旅行に行かれる方が多く回答していますので、このような値になっていると分析しています。
委 員	インターネットによるアンケートのようですが、なかなか具体性が見えない、例えばマンホールカードを観光協会で扱っていますが、今７，０００名ほどが取りに来ていて、非常にびっくりしています。遠方から取りに来ている方もありますし、そのような機会を活用するとより具体的なアンケート結果が出ると思います。
会 長	マンホールカードを取りに来られた方へ渡すときに、一言、二言、なんで来たのかとか、魅力は何ですかとか、何か聞けるかもしれませんね。
委 員	どこから来られたのかなど基本的な部分を聞いているようです。 市から委託を受けて実施しています。１０，０００名ほどいくと思います。集計して市に報告しますので参考にしてください。
委 員	５０ページに「ふるさと納税によって、愛西市を継続的に応援してい

	る」と記載がありますが、ふるさと納税をされている方はどの程度なのか。
職 員	ふるさと応援寄附金は、令和５年度実績で約３，５００名から受けており、寄附金額は約１億円となっています。
会 長	愛西市民が他の自治体に寄付をしている額は、どれくらいですか。
職 員	寄附をしている額は、約１億１，４００万円です。
委 員	交流人口・関係人口アンケートは全国にお住まいの方にアンケートを取ったということですが、名古屋市からなのか、具体的に過去どこから来訪された方が分かりますか。
事務局	東海圏や関東圏の回答が多くなっていますが全国、満遍なく回答者がおり、データが取れている状況になっています。
委 員	県外の方であれば、宿泊することとなりますが、愛西市内には宿泊施設はないと思います。どこに宿泊しているのでしょうか。
事務局	どこに宿泊しているかのデータはありませんが、知人の家に泊まることがない限り、名古屋など周辺地域での宿泊であると推測されます。
会 長	これらを踏まえたうえで後半のところで、ご意見をお出ししていただければと思います。市民アンケート結果では観光の重要度は下の方になっています。 小中学生アンケートもご覧になっていただいて、委員の感覚と子どもたちの捉え方と同じなのか、子どもは違う見方をしているのか、その辺りも後半のところでお出しいただければと思います。特に中学生は、将来、愛西市に住み続けてもらえるのかどうかの一つの分岐点かもしれません。 自由回答欄の分析で回答内容からキーワードを拾って整理したものが４４ページから４６ページまでに挙がっています。課題、マイナスとして意見をいつているのか、良いところとして意見を言っているのか、或いは現在のことなのか、未来のことなのかを含めて、読んでいただけるといいかもしれません。
委 員	外国人人口は増加傾向にありますが、その方は長い間住み続けているのか、短期に出稼ぎで来ているのか、どんな職業に就いているのか、興味があります。

会 長	外国籍の方が日本で滞在するためにはビザが必要になります。おそらく4年の技能実習生といわれる方が多い可能性が高いと推測します。永住できるような資格、例えば技能人文知識国際業務とかはそれほど多くないかと思います。
事務局	市民課のデータによりますと、令和6年4月現在、ベトナム国籍の方が1番多く、技能実習生が多いということは想像に至るところであります。2番目に多い中国国籍の方、3番目のフィリピン国籍の方は技能実習生だけではないように思います。ただし国際結婚されて愛西市にお住まいの方もいらっしゃいますので、一概に国籍だけで判断は難しいと思います。次に4番目がブラジル国籍の方、5番目が韓国籍の方です。今の社会情勢から推測するしかなく、コロナ禍等社会情勢が変化していく中で職業とか、どのように住んでいるのかなど、統計が取りにくい状況にあります。ただし、外国籍の方との共存を考えていかなければならないと思っていますので、総合計画を策定する中で、その辺りを委員の皆さんの意見をいただきながら考えていければと思っています。
会 長	今は、外国籍の方も住民基本台帳に登録されますので、愛西市民として同じ扱いになります。
委 員	外国籍の方は随分増加してきていますが、愛西市として外国籍の方を積極的に誘致する考えなのかお聞かせください。
事務局	市で外国籍の方を積極的に増やそうというわけではありませんが、製造業や農業の分野で労働者として多く需要があるのも事実です。また都市圏と比べ地価が安く、生活費も抑えることができることから、都市圏から流れてくるところもあると感じています。
委 員	市民ワークショップの参加者の世代別の属性を教えてください。また高校生ワークショップで愛西市以外の生徒はどれぐらいですか。
事務局	市民ワークショップは、20代から60代までのそれぞれの世代で2、3名程が参加している状況です。 高校生ワークショップは、清林館高校と佐屋高校を中心に参加されています。その中で愛西市に居住している生徒は約3割で、市外の生徒が多い状況です。
事務局	4. 審議事項 基本構想案について ＜資料1の58ページから64ページまで 事務局より説明＞
会 長	総合計画は、基本構想、基本計画及び実施計画に分かれます。実施計

委員	画は行政内部の計画ですから、この審議会としては、基本構想と基本計画を今年度、来年度で決めていく必要があります。次回、一番上の基本構想を固めたいので、今日はそれに向かっての大事な論点、ポイントについて議論していただきたいということです。 第2次総合計画の将来都市像（62ページ）と基本理念（63ページ）は分かっていますから、第3次総合計画の策定に当たって、この将来都市像や基本理念にどのような考え方を入れていくのか、自由にご意見をお出しいただきたいと思います。 観光は、いろいろな行事を行いますし、他市町村との交流もあります。どこかで観光というキーワードを入れていただくといいと思います。人口を増やすにしても、他市町村も魅力発信のツールとして観光に力を入れているため、一言もないのは寂しいと思います。
委員	小学生も中学生も愛西市の自然に魅力を感じており、愛西市の自然を保っていかなければならないと思いました。それと日本中のどこでも少子高齢化で、子どもが少なくなっていて、お年寄りが増えてきているところをどのように解決していくかが、大きな課題であると思っています。 やはり自然が愛西市にとっては大きな資源だと思いますので、これをどう守っていくのかを大きな柱として出せたらと思います。それから、子どもや働いている方、高齢者の繋がりをどうしていくか。スポーツ協会に関わっていますが、年寄りのグループになってしまって新しい人が加入しないという問題や子どもが減ってしまいクラブで子どもの取り合いをしているという問題があります。子どもから大人までが繋がっていくような人と人の繋がり、絆を作っていきたいという考えです。
会長	将来、小中学校の部活動は地域へ移行されるので、従来は学校で行っていたスポーツ活動を地域の指導者のもとで行われるようになります。
副会長	自然の魅力に関連して、移住者が多いというアンケート結果があつてそういう人たちは、自然豊かなところで子どもを育てたいと考えている人がいるだろうし、田園回帰もあつたりして、こういう地方で暮らすことがすごく魅力的という人もいます。若い人たちが農業に興味や関心を持っている人もいて、愛西市の自然や農業が盛んであることを考えると、情報を外に発信することにより移住者が増えるということは十分可能性としてあると思っています。確かに自然は魅力としてあると思います。 小学生のアンケートを見た時に、「安心・安全なまち」と回答した児童が多いが、市民アンケートでは「防災対策」が十分でないという市民の多いということを考えれば、自然災害が多いのでいかに安心した暮らせるまちづくりをしていくかが、これから大きな課題になると考えま

会 長	す。 転入者が転入届を出されるときに、愛西市の魅力やどこに魅かれましたかなど、何かお聞きしたりはされているのでしょうか。
職 員	今のところ行っていません。
会 長	お待ちしております時間があると思うので、その間に簡単でいいから、アンケートでも検討していただくのも良いと思います。
委 員	参考資料の８ページの「分野別都市づくり方針」都市計画マスタープラン（２０２１～２０３０）は一般的な書き方で、具体性に欠けていると感じます。この資料はどういう意味があるのでしょうか。
職 員	参考資料の８ページは、市総合計画の下位に位置し、まちづくりの基本となる市都市計画マスタープランで定めているものです。まちづくり基本法に規定され、市街化整備、公園・緑地の整備についての基本のものを定めているものになります。直近では、駅を中心とした市街地整備の拠点を作っていこうと動いていますし、駅を中心とした市街地近郊地の発展、既存の集落の維持も考えつつ検討を進めています。
委 員	コミュニティ活動や老人会活動に携わっていますが、例えば老人会に加入される方や参加人数が減ってきています。地域の活動を考えるとコミュニティ活動は非常に重要であると思います。今後、コミュニティセンターはどうなるのでしょうか。
職 員	コミュニティセンターについては、市の方針として市直営のコミュニティセンターをなくしていき、立田地区のコミュニティセンターなどを将来的に地元に移管していく考えです。現状としては、コミュニティセンターの取り壊しは考えていません。 また、老人会の話がありましたが、自治会への加入者も減ってきている状況にあり、課題となっています。
会 長	地区によって違うと思いますが、全体として自治会の加入率はどれくらいでしょうか。
職 員	アンケート調査をしたところ、９０パーセント以上は加入している状況です。アパートなどに入居している方の加入率は低いと思いますが、一戸建て住宅に転入される方や仕事等で転出された方が戻ってくるといった方は自治会に加入されるケースが多いと思います。今まで全く愛西市に関わりのない方の中には自治会への加入や地域行事への参加をされない方も比較的いると聞いています。

会 長	自治会加入率が90パーセントはすごく高い割合です。50パーセントを切っている自治体もあります。 農業の立場としてはどうでしょうか。
委 員	アンケート結果では、自然、農作物、景観といった農業への評価は高くなっていますが、一方で農業の盛んな立田地区や八開地区の人口推移を見ると減少率が大きく、高齢化率が高い。少子高齢化がより顕著に進んでいる地区となっています。 この総合計画は、市の最上位計画ということで、細かく具体的に踏み込む計画ではないかもしれませんが、データとして分かって、その地域の進む方向の分かれ道に臨んでいるこの時期に、総合計画だから具体性のある計画にしない、そこまで踏み込まないという姿勢はどうかと思います。総合計画の位置付けとしては、そこまで踏み込むのかどうか、2つの考えがあると思います。 その状況の要因としては、立田地区や八開地区は全域が農業振興地域であり、土地の利用が制限されている市街化調整区域ということでありますので、その方向性が自然に決まってきます。全市を平均的に見る見方と、市街化区域と市街化調整区域で整理する見方といった2つの視点で考えていく必要性があると思います。
会 長	大事なご指摘です。市町村合併によって生まれた経緯もあると思います。農用地が多くある農業振興地域と市街化区域内の駅中心の整備をどのようにバランスを取っていくのが大事であるというご指摘であったと思います。
委 員	アンケート結果で、愛西市への転入者が多いというデータが出てきていますが、子どもは増えていません。近隣市町村に比べて、転入する子育て世代が多いことから、これから子育て世帯へのサポートが手厚いまちというところも重要で、人口を増やす施策を進めていけるのではないかと思います。住宅地を増やしていくことは難しいですが、もっと何か切り込んでいけるといいと思います。 中学生アンケート結果を見て、中学生なのでもっと外を向いた意見があると思いましたが、「自然環境が豊かであること」、「電車、バス、車での移動が便利なこと」が結構高いと感じました。これからの若い世代の移住に対しては、愛西市には駅が多くあるので、その辺りも開発のポイントになると思いました。 愛西市の知名度が低い。レンコンが有名で、よくマスメディアでも取り上げられていますが、娘が25年ほど前に名古屋市の高校に入学した時に「海部郡佐屋町から来ました」と自己紹介をしたところ、周りが「どこにあるのか」となりました。今年、娘の息子が名古屋市の高校に入学

委員	して「愛知県愛西市」と話したところ周りがざわざわなつたと聞いて、全然変わっていないという印象があります。 シティプロモーション課も立ち上がりましたので、子育て世帯や若者等の移住者に対する施策、プラス知名度を上げていくことで、愛西市がやさしいまちで子育てをするのにとってもいいということで人口が増えていくきっかけの一つになるのではないかと思います。 知名度を上げるには、インターネットをやらない高齢者には、やはりテレビで取り上げられるといいと思います。愛西市のレンコンは県内1というような短いものでいいからPRし、それに付随して料理や美味しい食べ方とか料理研究家と一緒にPRできると思います。愛西市に行けばお値打ちに買えるとか、愛西市に足を運んでいただくことにより、住民一人一人がPR役となって広めていく連鎖反応が起こると思います。
委員	高齢化率はこれからも当分上昇が続くと思います。今、余命や寿命ではなく健康寿命が大きく取り上げられています。子どもが増えるだけではなく健康なお年寄りが多くいることもアピールポイントとなるので、この施策の中に取り入れていただけるといいと思います。
委員	スポーツ協会と総合型地域スポーツクラブに関わって15年くらいになります。親水公園総合体育館でストレッチ体操など行っていますが、約300名の会員数のうち約100名は60代以上の高齢者に来ていただいています。10数年前から継続して実施しており、最初から続けられている方もありますし、クラブを通じて友達ができるということなどで、喜んでやっておられます。 2012年に立ち上げたクラブですが、その当時の会員数は400名くらいでありましたが、現在は減ってきています。いろんなところで体を動かすことと、人と関わることによって、健康が維持できると思います。
委員	愛西市の知名度を上げるPRで、SNSで知りましたが愛西市在住で企業や自治体のPR、広報の仕事をされている方がいます。市のプロモーションや講演会を行っています。せっかく愛西市に在住されているので、そういったプロの助けを借りるなど人材を活用できると思います。
委員	自然豊かとは逆方向で耕作放棄地や遊休農地が多くなり、また後継者がいない農家が増えて、これからどうなるのだろうという心配があります。 農協と協力して新規就農者を募集したりしていますが本当に少なく

	て、レンコン組合でも高齢化で組合員が半分になって心配です。 これから愛西市として、農業を続けてPRするのであれば何か考えていくべきであると思います。
会 長	レンコンの新規就農者があるとお聞きしました。レンコンの収穫は重労働であるから、年を取ると大変ですよ。
委 員	新規就農者が1人、2人あったとしても、辞められる方がその何倍もいます。逆に家庭菜園をやりたいという方は、結構いらっしゃると思います。
会 長	市が間を取り持って、市民農園をされているケースはありますか。
職 員	新規就農者の補助であったり、農地の集約をしたり、いろいろな形で農業を盛り上げていこうとしていますが、高齢化が進み、辞められる方が多くなっています。現在、市で市民農園としてお貸しすることは行っていないですが、農家の要件が緩和されていますので、非農家の方でも条件はありますが農業に携わっていただくことができます。
委 員	商工会も同じで、商売を営んでいるところも高齢になってきて後継者がいません。住宅兼店舗が、高齢者の自宅になっていることが多くあり、シャッターを閉めれば、それで廃業になります。近々閉店するのではないかとこのところが結構あり、3割ぐらいとも。M&Aとまではいかないとしても、魅力ある商店を作って違う後継者が入りやすいように、国・県、商工会として、後継者の相談に乗っています。2年くらい前から行っていますが、折り合いがつかない状況です。 全体的には、自然豊かなのどかな街ですが、夜は街路灯が少なく怖いし、道路も歩道がないから歩きにくい。移住者は条件があれば来ていただけるが、都会と違い立田地区は人の入りが少ない。地域もそうですが、来る人もすごく抵抗があると思います。 空き家を探していると問い合わせを受けることありますが、所有者側の世間体等が理由で、成立しないケースもあります。立派な建物も多く、海外の方が買収、居住するケースが増えています。そういった方を迎え入れる体制が整っており、交流が進んでいる地域もありますが、そうではない地域もあります。 商売が順調に進んでいたとしても、子どもが転出するケースが多く、将来的に戻ってくるのは1～2割です。後継者問題に加え、新たな設備投資も必要となると、廃業に追い込まれてしまうことが多いです。
委 員	45ページ「人口増となるまちづくり」の中に「立田地区で住みたかったが市街化調整区域で家を建てられない。」とあります。立田・八開

	地区を回っていただくとわかりますが、そういったところは耕作されていない農地になっています。人口を増やすために人に来ていただき家を建てていただけるといいが、市街化調整区域となっており制約があります。ここは行政で考えなければならないところであると思いますが、そういう問題がこのデータに多く出ています。 社会福祉協議会の立場で状況を話すと、障害のある方のためにグループホームを作ることがあります。空き家を改造して入居できるようにしたら、大変喜ばれたことがあります。周辺の方からも苦情は一切聞こえてこなかったのも、グループホームに対する偏見などは、かなり克服されてきていると感じています。 第2次総合計画の中で、「絆」という言葉が入っていて、大変いい言葉が使われています。昨年、社会福祉協議会が中心となって福祉まつり・あいさいの里まつりを開催しました。人と人とのつながりは非常に重要ですので、第3次総合計画の中でも「絆」という言葉を掲げていただきたいと思います。
委 員	私の周りには借家の空き家が多くあります。火災とか危ないと思うのでどうにかしていただきたい。空き家、空地を何とかして、公園とかを作って子ども達が、そこで遊べるようになればと思います。
委 員	来年4月から、津島高校が中高一貫校になります。愛西市には愛西工科高校がありますので、県下初の工業系の中高一貫校をぜひ愛知県に働きかけていただきたい。
委 員	今、文化協会に入られる若い人がほとんどいません。そこで昨年、一般の人たちにも参加していただく会議を始めました。若い人たちは前向きな考え方をする人が多く、幅広い人材を集める努力をしなければならぬと考えています。少し体制を考えないと組織を維持できないという意見が出ています。
委 員	農業というのは個人経営になりますので、採算が合わないことには動けません。水田については、担い手に土地面積を集約して、水稻だけではなく麦や大豆、野菜への転換も個別の企業体で計画、経営されています。畑については、区画が小さいこと、集約が難しいことで受け手がありません。畑で収益の上がる作物が難しいという実情もあります。レンコンやイチゴは、収益性があるから新規就農者もあります。 農業委員会がパトロールで、不耕作地の把握をしていますが、不耕作地であっても、草木が生い茂っているところから草刈りをすれば耕作できるレベルまで幅があります。
副会長	皆さんの意見を聞いて、やはり少子高齢化や人手不足、コミュニティ

	の繋がりが、どこにおいても大きな共通する課題と思います。この後、総合計画のまちづくり基本理念について話し合うことになってくると思います。第2次総合計画の基本理念が63ページに3つ書かれていますが、今話を聞いていて、コミュニティの繋がりが、団体や市民と行政の協働によるまちづくりを今後も継続してやっていく必要があります、これをより強化していくような基本理念、考え方も必要になってくると思います。
会 長	大きく変えるというよりは、中身のところをさらに強めて深めていくということが重要です。
委 員	最近、いろいろなところで凶悪事件が起きていて、防犯カメラの映像で検証されています。町内会では防犯はあまり話題にならないが、愛西市のまちづくりには防犯はすごく大事なもので、そういう視点でも加えていただけると良いと思っています。
会 長	皆さんの意見は事務局で記録しておりスクリーンに示しています。62ページに第2次総合計画の将来都市像として「ひと・自然・愛」の3つのキーワードが、63ページには基本理念として「協働・持続可能・絆」のキーワードが挙がっています。今の議論でどのような意見が出ていたかスクリーンを見ていただいて、将来都市像や基本理念に盛り込むべきキーワードが、今の時点であればお聞きしたいと思います。
委 員	安心というキーワードが思い浮かびます。
会 長	防災という意味でも安心が出てくるかもしれませんね。 全体を通して事務局どうですか。
事務局	委員の意見を集約すると第2次総合計画の基本理念のキーワードを、第3次総合計画は深化させていくことがポイントになるのかと考えます。人口減少が、第2次総合計画を策定した時よりも顕著になってきている視点。それに対してDXを推進することで、人手不足・人口減少をカバーできる部分もありますので、そういった単語を拾いながら形にしていくことが必要であると感じています。
会 長	62ページに将来都市像があって、その下に解説文があります。豊かな農産物が最初に挙がっています。川、緑などの「自然」、絆もあり、皆様の意見を聞いていると今もそうであると思いますが、農業をそのままにしておいて維持できるとは限らないし、木曽川があるのでしょうか。緑の中には農地を含めた緑であると思いますので、それを維持していくためには我々が努力しなければならない。絆もそうです。この辺りの考

事務局	え方をどう引き継ぎ、さらに深めていけるかが第3次総合計画のポイントです。 この審議会のご意見と、ワークショップ、アンケートのご意見を総合して、第3回審議会には基本理念や将来都市像の事務局案をお示しますので、ご審議いただきたいと考えています。
事務局	5. その他 次回の愛西市総合計画審議会は、令和7年3月19日（水）午後2時から、場所は市役所災害対策本部会議室です。 第3回審議会では、基本構想案を議題としていく予定です。
会 長	本日の資料で、気づかれた点があれば随時事務局にご連絡ください。審議会はこれにて終了します。どうもありがとうございました。 閉会